

ICAN Monthly Report 5



「平和の学校」のイメージを描く参加者

着実に草の根の平和を広げていく

<紛争の影響を受けた子どもたちの事業：担当職員からのレポート>

ミンダナオ中部事務所の松浦です。ミンダナオ島中部では、過去約 40 年もの間、自治を求めるイスラム勢力と国軍との間で、軍事衝突が繰り返されてきました。そして、その度に人々は住処を追われ、生活は疲弊していきました。

アイキャンは、過去 3 年間、ミンダナオ島の中央に位置するピキット町北部地域において、平和教育に積極的なモデル校「平和の学校」をつくる活動を行ってきましたが、今年 3 月からは、新たな三年事業として、同町南西部地域に、その活動を拡大しています。これで、ミンダナオ 3 大紛争地域の一つピキット町の大部分において、「平和の学校」が広まることになります。

4 月 12 日から 4 日間、ピキット町西部 3 村の学校 7 校の教師と PTA 代表、村の代表計 28 名と、この新規事業に関しての話し合いを行いました。参加者は、地域から平和を促進していくために「村と学校が共同で平和シンポジウムを行う」「平和行進を行い、キリスト教徒とイスラム教徒の融和を村民に訴える」といった今後の行動計画を提案しました。更に、万が一紛争によって避難生活が生じた時は、どのように避難所で授業を行うか、学校再開後の補習授業の方法等についても議論が及びました。

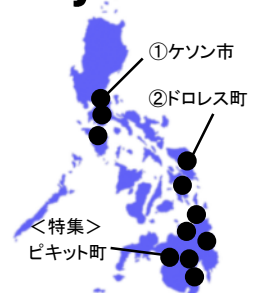
2 年前の大きな軍事衝突により、砲撃で地域の小学校の校舎が焼かれたパイドゥ・ブランギ村の高校の校長サノットさん（45 歳）は、この日の話し合いの最後に、次のように語りました。「この事業によって、改めて私たちは、学校や地域で平和を作り出していくという使命を与えられた。そのことをしっかり心に留めて今後の研修に参加したい。」

2014 年 3 月、イスラム勢力と国の間で、「ミンダナオの和平合意」が結ばれました。この合意をもとに、実際に自治が与えられるかどうか、予断を許さない政治状況でもあります。また、たとえ政治リーダーの間で「和平」が合意されたとしても、地域の人々の間に存在する憎しみや悲しみが取り除かれ、人々が、小さな争いを平和的に解決する習慣を身に着けること、そして、1 人 1 人の子どもたちの可能性を広げる基本的な教育が普及することなしに、真の平和がやってくるなどありえません。そこに、アイキャンの「平和の学校」の活動の意義があります。



ミンダナオ中部事務所
松浦宏二（まつうらこうじ）
～プロフィール～
フィリピン大学大学院の
後、外務省 NGO 専門調
査員や NGO 職員として
フィリピンに駐在。2011
年 11 月より現職。

Project Site



<特集>
ピキット町

※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者からの一言】4 月までに 200 名を目標としていたマンスリーパートナーは、4 月末時点で 164 名になりました。ありがとうございました。引き続き募集していますので、ぜひお知り合いの方にも、このマンスリーレポートとともにご紹介いただければ幸いです。

Close up

～4月の活動ハイライト～

全10事業の中から、今回はこちらの2つの活動をご紹介します。

①路上の子どもたち(ケソン)

コンサート来場者にパン153個を販売！



元路上の子どもの協同組合カリエが、コンサートでパンを販売するため、7名が朝8時半に製パン所へ集まり、ピザパン等3種類のパンを作りました。会場では、ジョネル君(21歳)が、練習した日本語で「仲間と作りました。是非食べてください。応援宜しくお願いします。」とスピーチをしました。合計153個の売上は、カリエが今後行うカフェの運営資金に使われます。(4月25日)

②災害の影響を受けた子どもたち(ドロレス)

台風強い家で新たな生活を



「台風強い家づくり」の研修を受けた大工や未熟練労働者計109名がキャッシュアウトワーク(緊急雇用)に参加し、26世帯の家が完成しました。カラガさん(50歳)は、「以前よりも丈夫な家ができて、家族もとても喜んでいる」と話しました。現在までに、2014年12月の台風で壊れたサマル島の家計111世帯が、完成しています。(4月21～25日)

今月のICANを増やす活動

国際理解教育事業

4月18日/名古屋

日比の中高生が日本事務局で交流

名古屋国際中学校高等学校を5日間訪問していた、フィリピンのイマキュレイト・コンセプション学校バリワグ校(ICSB)の生徒7名と先生2名が、日本事務局を訪れました。他校の生徒も含め総勢27名で交流を行った後、近くの商店街を散策。ICSBのKさんは、「新しい友達もでき、とても楽しく、良い一日になった」と話しました。



MYアイキャン事業

4月23日/名古屋

高校生団体が街頭募金で30万円達成！

路上の子どもの保護施設「子どもの家」の建設への募金活動をしていた、名古屋高校生国際ボランティア団体「どえりゃあwings」が、目標の30万円を達成し、メンバー4名が届けてくれました。このご寄付は、施設のトイレ兼シャワールーム2つの建設費に充てられます。メンバーのH君は、「目標を達成し貢献できて本当に嬉しい」と語りました。



今月のAnnouncement

夏のスタディツアー、ワークキャンプの開催が決定しました！

◆スタディツアー (4泊5日、参加費69,000円)

- 【日程】プランA: 2015年8月5日(水)～9日(日)
プランB: 2015年8月26日(水)～30日(日)
プランC: 2015年9月9日(水)～13日(日)

◆海外ボランティア (6泊7日、参加費86,000円)

- 【日程】2015年9月1日(火)～9月7日(月)
*路上生活の現場を訪れ、保護施設「子どもの家」や、元路上の子どもたちの運営するカフェ等で、様々なボランティアをします。

*マンスリーパートナー、キッズパートナー会員は、新規・既存ともに、旅行代金が1万円割引となります。詳細はHPへ! <http://www.ican.or.jp>

今月のMedia

新聞等に8件掲載されました！

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 4月2日 まにら新聞 ANA 寄席2015の収益金を寄付 | 4月16日 読売新聞(愛知県版) レイテ島の小学校卒業式 |
| 4月6,13,20日 まにら新聞 チャリティコンサートの告知 | 4月26日 プライマーブログ チャリティコンサート |
| 4月15日 読売新聞(三重県版) レイテ島の小学校卒業式 | 4月27日 まにら新聞 チャリティコンサート |

今月のICANな人

◎三浦さん、力強いメッセージをありがとうございました！

マンスリーパートナー 三浦菜緒さん

「スタディツアーでの想いを形に」

インタビュー:4月22日

私は、所属する学生団体の先輩の紹介でアイキャンを知りました。その後日本事務局を訪問し、スタディツアーの存在を知って、今年3月に参加しました。以前から、こんな豊かな日本には、世界で起きている社会問題を一生身近に感じることはできないと思っており、そこに問題意識を持っていたからです。

5日間のツアーの中で一番印象に残っている出来事は、見知らぬ幼い少年が、コンビニで買ったアイスを食べながら私に物乞いをしてきたことです。それは、アイキャンと関わる路上の子どもたちと半日一緒に遊んで仲良くなった日で、彼女たちと別れる際、この子たちは帰っても安心して寝る場所がないのだと、辛く思った矢先の出来事でした。物乞いをする少年を無視することしかできなかった私は、自分の想いと行動のギャップに大きなショックを受けました。帰国後、時を経るにつれて薄れゆくであろう想いを、何か行動に移さなければと思い、マンスリーパートナーになるという手段を使って形にすることにしました。現在、私は所属団体を通じて、学生に海外へ行くことを勧める活動をしているので、フィリピンでの自身の経験を話すことで、自ら海外へ行き、行動に移せる学生を一人でも多く生み出したいと思っています。あの時出会った子どもたちが安心して寝られる環境ができることを切に願っています。

